

FDA、新型コロナワクチン接種と成人の死亡例との関連を調査

12/10(水) ブルームバーグ



(ブルームバーグ)：米食品医薬品局（FDA）は、新型コロナウイルスのワクチン接種が成人の死亡を引き起こしたかどうかを調査している。調査は安全性審査の一環で、これまで知られていたよりも広範囲にわたる。

FDA の複数の部門が協力して実施している調査は、当初は子どもが焦点とみられていた。これまで多くの研究で、新型コロナワクチンの安全性は確認されている。

FDA の報道官は 9 日、ブルームバーグに対し「FDA は新型コロナワクチンに関連する可能性のある死亡例について、複数の年齢層を対象に徹底的な調査を行っている」と述べた。米厚生省のケネディ長官は、新型コロナワクチンの安全性と有効性に疑問を呈しており、mRNA ワクチン技術に対する数億ドル規模の資金提供を中止している。mRNA 技術はモデルナとファイザーの新型コロナワクチンの基盤となっている。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）の収束を受け、毎年追加接種を控える人が多いことから、両社の新型コロナ関連事業はすでに圧迫されている。ただ、2024 年に新型コロナワクチン事業は両社に数十億ドル規模の収益をもたらした。

モデルナの広報担当者は、同社の 9 月の声明を引用し、自社製ワクチンの安全性は、同社および 90 カ国以上の規制当局によって厳格に監視されているとの見解を示した。ファイザーはコメント要請に直ちには応じなかった。

FDA のワクチン部門トップ、ヴィナイ・プラサド氏は先月、ブルームバーグが入手した内部メモで、ワクチン承認基準をより厳格にすると述べた。同氏は根拠を示さないまま、調査の結果「子ども 10 人がワクチン接種が原因で死亡した」と主張していた。

これに対し、FDA の歴代局長 12 人が医学誌に寄稿し、プラサド氏の新たな規制方針を非難した。

スタンフォード大学とイタリアの大学の研究者らが 7 月に発表した分析によると、新型コロナワクチン接種は 2020－24 年の間に世界で約 250 万人の死亡を防いだと推計される。この効果の多くは高齢者に集中していたという。